

グループホーム 郷
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401699		
法人名	有限会社 介護サービス郷の家		
事業所名	グループホーム郷		
所在地	札幌市手稲区前田5条15丁目2番8号		
自己評価作成日	2019. 1. 10	評価結果市町村受理日	2019. 2. 5

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401699-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日々穏やかに過ごせるような環境作り ・入居者様の日々の健康管理の実施 ・食の楽しみが感じられるように

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム郷」はJR手稲駅から徒歩圏内に位置し、バス停からも近い1ユニットの事業所である。木造2階建ての下宿を改築し、屋内は元の造作を活かしながら家庭的な造りになっている。居間には写真装飾やテレビ、カラオケ機器を設置し落ち着いた空間になっている。2階への移動は自立につながり、安全性も確保している。運営者が親も入居できる家庭的なグループホームづくりを理想に開設し、13年が経過する中で地域住民との交流や近隣との自然な付き合いを大切にしている。事業所庭に植えている葡萄の木収穫時には子供たちも訪れている。近所から野菜類の差し入れを受けたり、また事業所でも収穫物を提供するなど身近な交流が行われている。「非常災害対策計画」に沿って詳細な各緊急時の対応方法や入居者の状況、連絡先、避難場所など、非常に分かりやすいマニュアルを作り、本人や家族が安心できるように整備している。申し送りの時間を有効に活用し、勉強会や身体拘束適正化の取り組みで事業所内に委員会を設置し、身体拘束をしない、言葉遣いや対応に心を込めて行うなど常に確認している。運営者や管理者と職員は利用者の希望に沿って可能な限り個別に対応している。利用者との会話を大切にしながら温かなケアを行い、地域の中で穏やかな暮らしが出来るように家庭的な環境を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	表にして繰り返しスタッフと確認し、実践している。	地域密着 型サービスの文言を入れた理念を掲げ、職員採用時に理念の意義を説明している。申し送り時に利用者が地域の中でゆったりとした暮らしができていないかを理念に照らし合わせて確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ごみ当番、祭り、雪はね等、交流している。	利用者全員が町内会に入会し、町内会の清掃活動に利用者も周囲のゴミ拾いをしている。事業所行事の海鮮祭りには住民の参加を得て交流している。近所の人や通学中の生徒とは日々挨拶を交わし、自然に触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	この地域からの入居者が5割をこえた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	十分に利用。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、感染症、外部評価、行事のほか、防災では昨年の地震対応の報告、身体拘束適正化の取り組みなどを説明し意見を交換している。家族の来訪時に会議への参加を呼びかけ、議事録は全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会があるごとに相談している。	管理者は何かあれば市役所に出かけ変更事項などで相談することもある。区役所の介護保険課や生活保護課の各担当者とは書類手続の代行や制度について確認し、その都度対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	十分に取り組んでいる。	今年度より、身体拘束適正化について新たに書類を作成し、事業所内に委員会を設置している。3か月ごとの会議で事例を確認し、職員は会議の内容を把握して拘束をしないケアを行っている。また身体拘束の禁止行為を理解し、不適切な言葉遣いや対応についても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに基づき、毎年、また定期的に説明し実施している。		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その度毎、理解、納得してもらえるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。	家族の来訪時に意向を聞き、本人の食べたいものは主治医と相談しながら家族と話し合い調整している。意見などは職員間の連絡ノートや管理者ノートで共有している。毎月担当職員が利用者ごとのお便りを送り暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	十分に反映させらせるよう努力している。	申し送り時に業務やケアについて意見を交換し、参加できない職員は連絡ノートで共有している。管理者は業務の中で個別の意向を聞き、勤務や休みの希望を取り入れたり、外部のケアに関する事例検討などに参加できるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	完全とは言えないが、その方向につねにむくように具体的に実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分とは言えないが、繰り返しトレーニングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する時点での実施を十分に行っている。(特に健康面、精神面、経過等、十分に状況を把握できるようにしている。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ全員が家族と思えるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行っている。	地域からの入居者が5割以上になり、数名の利用者に近所に住んでいた友人や知人が来訪している。家族と外食、買い物、温泉に出かける利用者もいる。通院の帰りに好きなお菓子を買ったり、趣味の編み物が続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	ほぼ会話が可能で、意向や趣味、嗜好などを把握している。本人の希望には可能な限り対応している。入居時にセンター方式のアセスメント表を作成し、課題分析表を6か月ごとに更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。	基本的には6か月ごとに計画を見直し、計画作成担当者は担当職員の意見や日々の記録からモニタリング・評価を行い介護計画を作成している。分かる利用者に内容を説明している。日々の記録は「24時間生活変化シート」に記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間での話し合い、管理者、ケアマネへの情報の確認等繰り返し、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑、花畑等への参加、実施。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の病院への対応も続いていて、病院との関係は良好である。	利用開始時に受診先の意向を確認し、専門的な通院の8割は事業所で対応し主治医と連携している。内科、歯科の訪問診療を全員が受けている。今後、個別に記録を整理することも考えている。	

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護スタッフとのこまかな連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	利用開始時に、契約書(医療上の必要への対応)の中で医療行為が必要な場合は対応が難しい事を説明している。重度化した場合は主治医、家族と話し合い、可能な限り対応しているが医療行為の必要に応じて入院方向となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防との訓練も継続的に実施している。(年2回)	昼夜を想定した避難訓練を実施し、5月に消防署の協力の下で夜間想定訓練を行っているが住民は参加していない。非常災害時の詳細なマニュアルを作成し、地震などの対応確認や備蓄品を整備し、職員の救急救命訓練の受講を進めている。	次回の避難訓練には消防署と地域住民の協力を得て行われるよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している。	職員が入職した際は心を込めて家族のように接し、特に手引き移動は優しく丁寧にしよう説明している。利用者への言葉かけも尊厳を重視した温かみを感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に清潔面では十分気を付け、実施している。		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。	以前の栄養士が作成した献立表を基本とし、食材は週1回配達されている。誕生日にはケーキの提供や何が食べたいかを事前に聞き取り、当日の献立に取り入れている。畑の収穫物も食材に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間にかかわらず、排せつの促し、確認を実施している。	座位が保てる限り便座に腰かけ排泄できるよう支援をしている。夜間もトイレに行き、出来る限りオムツを使わないようこまめに誘導している。排便コントロールのためヨーグルトの提供や腹部マッサージをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行っている。	木曜日を除き、それ以外の曜日は毎日3名程度が午前中に職員との会話を楽しみながら好みの湯加減で入浴をしている。入浴が嫌いな利用者には無理強いせず足浴と清拭で清潔保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間時に定期的に確認する等、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに対して、スタッフ全員、十分注意、確認を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間の対応は十分とは言えない。	暖かな季節は朝食後の散歩をしている。5月の花見は軽川に、11月は朝里のゴルフ場で紅葉を見物。7月にも銭函や赤井川へドライブをしている。冬季も雪まつりを車中で見物したり、通院の帰りに買い物に寄っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金の管理ができにくい問題があり、難しい課題でありなかなか実施できない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に生活空間の清潔面を気を付け、落ち着いて過ごせるように空間づくりをするよう、努力している。	各階にトイレが2か所と洗面所がある。階段に手すりのほか、椅子式の昇降機があり利用者が操作しながら利用している。落ち着いて、のんびりできる食堂の隣はテレビ室になっており、ソファに腰かけカラオケを楽しむこともある。広い駐車場では夏場に海鮮祭りを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	入居前より使っていた馴染みのものや、使い慣れたものを持ってきている。姿見やテレビ、冷蔵庫、仏壇、家族の写真、花や自分で作った作品など愛着のあるものに囲まれて安心して暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム郷

作成日：平成 31年 1月 31日

市町村受理日：平成 31年 2月 5日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	地域住民の協力を得て行われるよう実施してほしい。	従来からの消防署の協力を得て、昼夜の訓練の実施の継続と災害マニュアルの繰り返しの理解を深めることを続け、今後については近所の方の参加をお願いし、災害、防災に対する共通認識を深めていきたい。	消防訓練時、前もって個人宅に案内をし、参加してもらえるよう努める。日ごろより、挨拶や入居者の紹介を行い、関係を深めていく。春には花、夏、秋には野菜や果物等を継続的におすそ分けし、良好な関係を築き、参加してもらう体制を維持していきたい。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。